

ベトナム
村落開発分野要請背景調査報告書

JICA LIBRARY



1172819[3]

平成 15 年 3 月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

青海二

JR

03-04

ベトナム
村落開発分野要請背景調査報告書

平成 15 年 3 月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局



1172819【3】

序 文

調査対象国であるベトナムに対しては、1995年、ハノイ市における日本語教師隊員に限定するという条件のもとで派遣を開始してから、これまでに80名の隊員を派遣し(2003年3月31日現在)、現在では、職種の拡大や地方への展開が着実にすすんでいます。

昨今、ベトナム事務所では、特に村落開発及び基礎教育・障害者支援(現職教員特別参加制度対象職種)並びに看護師・助産師等の保健医療分野の要請開拓を積極的に実施しており、平成14年度には12件の村落開発普及員の要請が新規に提出されました。

このような背景のもと、新たに派遣が開始される村落開発分野隊員の派遣予定地を訪問し、現地受入体制の精査、同分野における対応可能な活動内容等の情報提供を行い、情報収集と配属先関係者の理解促進に資すると共に、隊員をより効果的に派遣するための提言を導き、同分野の今後の隊員派遣計画策定に資することを目的として、2002年11月24日から12月4日までの11日間にわたり、ベトナムへ調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団による調査結果を取りまとめたものであり、今後の村落開発分野隊員の派遣方針を検討するにあたり、関係者に広く活用されることを期待しています。

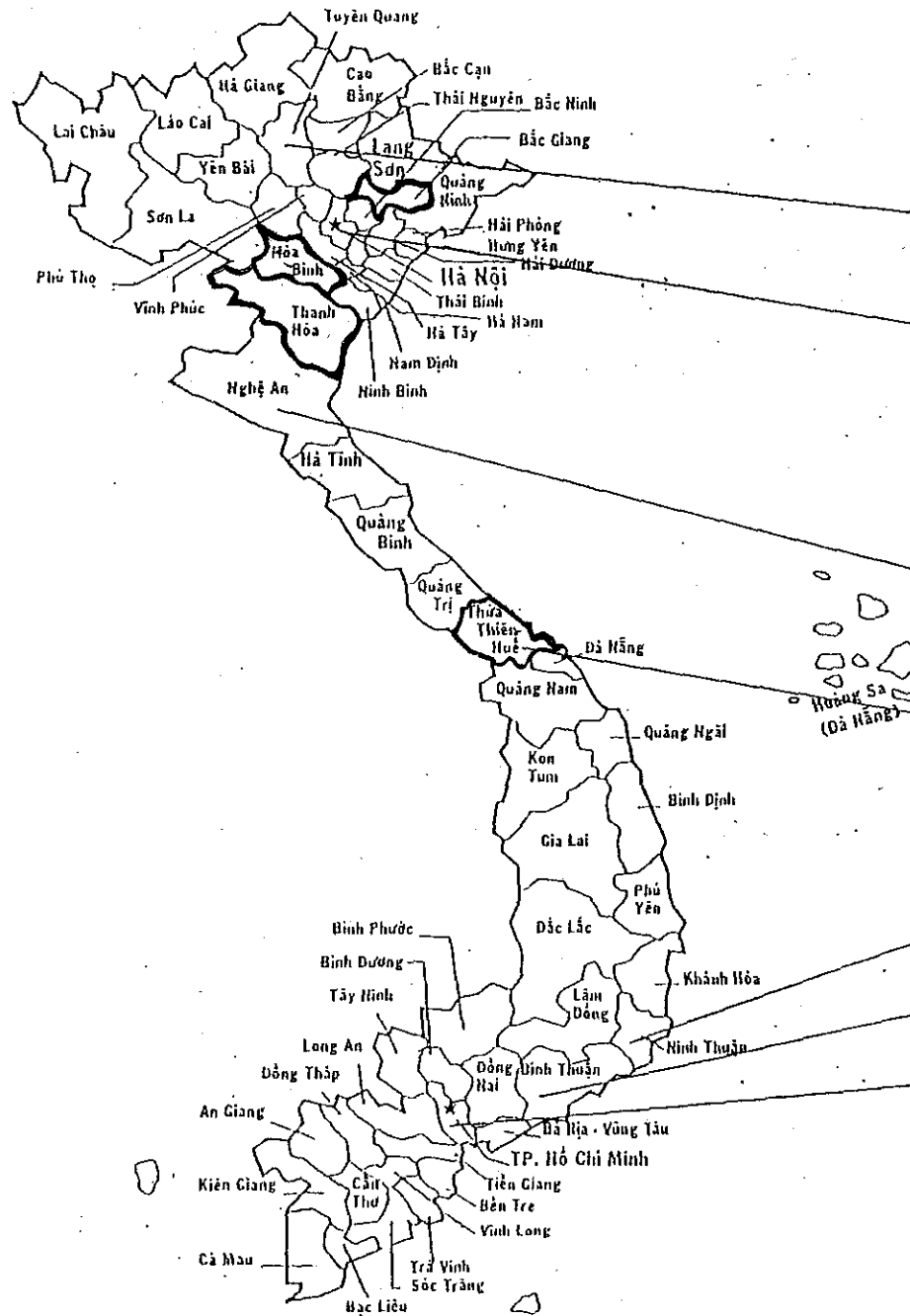
最後に、本調査団を派遣するにあたり、ご協力いただきました国内外の関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも格別のご支援をお願いする次第です。

平成15年3月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局
事務局長 金子 洋三

— ヴィエトナム社会主義共和国、青年海外協力隊隊員配置図

平成14年11月22日現在



- 1 派遣取組： 平成6年(1994年)8月29日
- 2 派遣開始： 平成7年短期緊急派遣 3名(男性1名、女性2名)
- 3 派遣開始隊次： 平成7年度(次隊 3名(女性3名))
- 4 派遣中隊員数： 30名 (男性10名、女性20名)
- 5 累積隊員数： 72名 (男性26名、女性46名)
(短期緊急派遣隊員3名及びシニア隊員3名含む)

TUYEN QUANG (トゥインクアン省) 2名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III3/3	後藤 飛鳥	診療放射線技師	~2004.04.02
2	III4/1	諸岡 佳子	栄養士	~2004.07.15

HANOI (ハノイ市) 8名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III2/1	村井田 優子	日本語教師	~2003.01.31
2	III3/1	鮮村 訓子	食品衛生	~2003.07.10
3	III3/1	藤巻 政和	日本語教師	~2003.07.10
4	III3/1	松田 知子	日本語教師	~2003.08.16
5	III3/2	鈴木 綾乃	日本語教師	~2003.12.04
6	III3/2	西山 幸代	日本語教師	~2003.12.04
7	III4/1	徳増 紀子	日本語教師	~2004.07.15
8	III4/1	藤田 奈津子	日本語教師	~2004.07.15

NGHE AN (ゲアン省) 3名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III2/2	江川 うらら	助産師	~2002.12.12
2	III2/2	的野 雅子	助産師	~2002.12.12
3	III2/3	吉村 純子	助産師	~2003.04.02

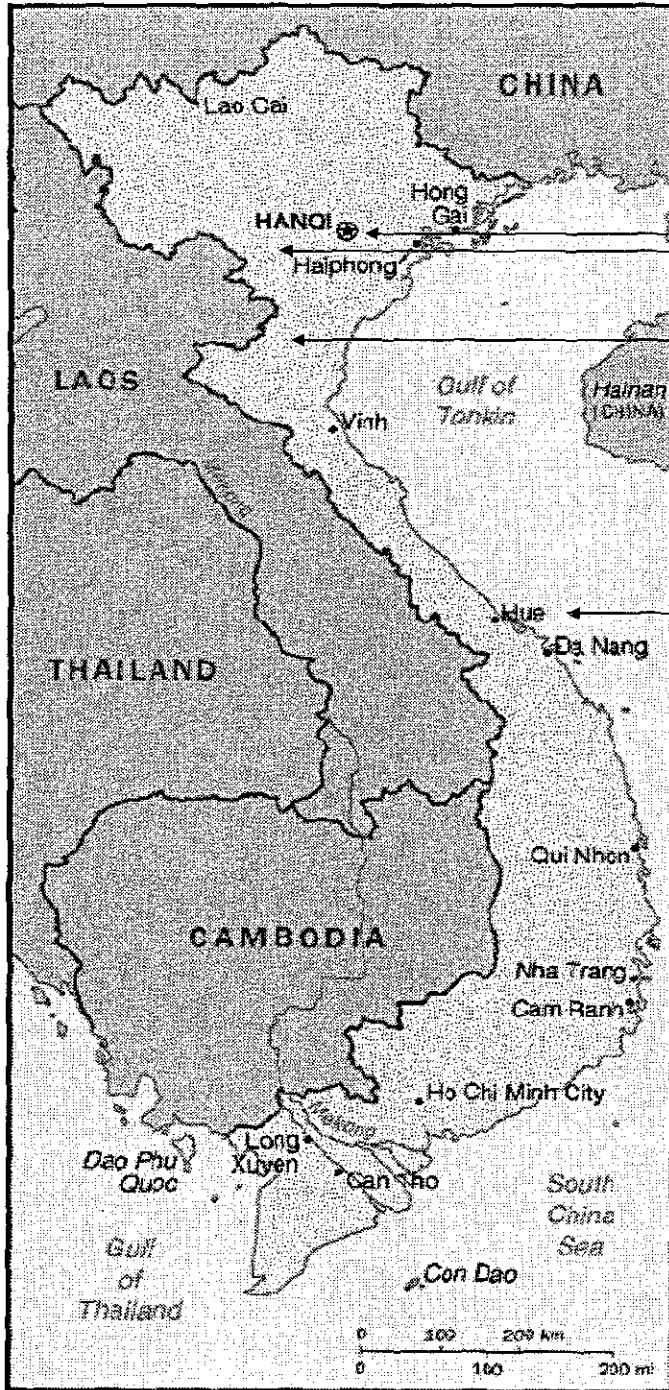
HUE (フエ市) 3名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III2/2	丸田 啓子	看護師	~2002.12.12
2	III2/2	山下 美穂	助産師	~2002.12.12
3	III4/1	小林 章子	観光業	~2004.07.15

NINH THUAN (ニントゥアン省) 2名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III2/3	伊藤 祐子	バレエ・バレエ	~2003.04.02
2	III3/2	小山 佳孝	バレエ・バレエ	~2003.12.04

BINH THUAN (ビントゥアン省) 2名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III3/1	井岡 大和	バスケットボール	~2003.07.10
2	III3/3	浅海 毅一	バドミントン	~2004.04.02

HCMC (ホーチミン市) 10名				
NO	隊次	隊員氏名	職種	活動期間満了日
1	III2/1	高橋 歩	観光業	~2003.07.11
2	III2/2	寺西 順子	コンピュータ技術	~2002.12.12
3	III2/3	列田 野子	沙加	~2003.04.02
4	III3/1	穂沼 恵美子	栄養士	~2003.07.10
5	III3/1	七五三 靖子	新体操	~2003.07.10
6	III3/3	櫻庭 隆	テニス	~2004.04.02
7	III4/1	大島 一仁	テニス	~2004.07.15
8	III4/1	三井寺 学	卓球	~2004.07.15
9	III4/2	栗原 明美	日本語教師	~2003.08.18
10	III4/2	田島 久	アーク・ワーカー	~2004.08.18

地図（現地調査実施地）



- バグザン省 →

ボーハ村人民委員会
 タンティン村人民委員会
 ディンケ村人民委員会
 (3件とも14年度秋募集で募集中)
 保健師募集中
- ホアビン省 →

ホアビン省保健局 (14/2次隊)
 保健師が14/3次隊で派遣予定
- タインホア省 →

ホアンホア県農業・農村開発局
 (14/3・15/1次隊)
 ホアンホア県赤十字協会 (14/3次隊)
 保健師募集中
- フエ市

フエ市経済局 2名
 フエ市外務局
 (3件とも14年度秋募集で募集中)
 家政・造園募集中



ホアビン省



ホアビン省人民委員会



ホアビン省総合病院



ホアビン省予防医療センター



ホアビン省 LUONG SON 医療センター



バグザン省ディンケ村の商品（金物）販売所



バグザン省タンディン村人民委員会／ディンケ村人民委員会



バグザン省ポーハ村人民委員会



バグザン省ポーハ村での竹製品製作現場



フエ市 KIM LONG 居住区



フエ市水上生活者の生活状況



フエ市水上生活者の生活状況



フエ市立病院（中央が丸田啓子隊員（12/2・看護師））



フエ市立病院（右側が山下美穂隊員（12/2・助産師））



タインホア省ホアンホア県



タインホア省ホアンホア県赤十字協会(右から4番目がホアンホア県人民委員会副議長／右から2番目がホアンホア県赤十字協会長)



タインホア省 HONG THINH 村での竹細工製作の様子



タインホア省 HONG THINH 村の竹細工作業所（日本人女性が指導）

=目次=

序文

隊員配置図

地図（現地調査実施地）

写真

第1章 調査団の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
1-5 対処方針	7
1-6 調査項目	8
第2章 ベトナムにおける青年海外協力隊派遣概要	9
2-1 派遣中隊員数	9
2-2 隊員派遣の現状	9
2-3 青年海外協力隊派遣方針	9
第3章 調査結果	11
3-1 ホアビン省	11
3-2 バグザン省	13
3-3 フェ市	14
3-4 タインホア省	16
第4章 考察	18
4-1 団長総括	18
4-2 村落開発普及員の派遣方針に係る提言	19
付属資料	
1 議事録（要旨）	21
2 配属先配布用アンケート	37
3 ベトナム村落開発分野要請一覧表	38
4 受入希望調査表（平成14年度春募集・秋募集）	39

第1章 調査団の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ベトナムは、政治的背景から外国ボランティアの受入について非常に慎重であり、協力隊員の派遣については、1995年、ハノイ市における日本語教師隊員派遣に限定するという条件のもとで開始された。その後、ベトナム事務所の広報活動や隊員の熱心な活動によりベトナム側の理解・期待が高まり、1998年のホーチミン市への水泳隊員派遣を皮切りに、職種の拡大や地方への展開が着実に進んでいる。

昨今、ベトナム事務所では、特に村落開発及び基礎教育・障害者支援（現職教員特別参加制度対象職種）並びに看護師・助産師等の保健医療分野の要請開拓を積極的に実施しており、村落開発分野については、平成14年度春募集4件、平成14年度秋募集8件の要請が新規に提出された。

このような背景のもと、今後、ベトナムにおいては、協力隊員派遣の地方展開が急速に進行するものと予測されるが、地方政府は中央政府に比べ協力隊に対する理解がまだ不十分なところもある。

本調査は、村落開発分野の隊員派遣予定地を訪問し、現地受入体制の精査、同分野における対応可能な活動内容等の情報提供を行い、情報収集と受入窓口機関及び配属先関係者の理解促進に資すると共に、ベトナム事務所・関係機関担当者と協議し国内の応募状況も考慮に入れた同分野への今後の隊員派遣計画策定に資することを目的とする。

1-2 調査団の構成

- (1) 総括・村落開発 結城 史隆
技術専門員（担当職種：村落開発普及員）
秀明大学国際協力学部 教授
- (2) 派遣計画・業務調整 柿田 美恵子
青年海外協力隊事務局海外第二課 職員

1-3 調査日程

2002年11月24日～12月4日

月日(曜日)	行程
11/24(日)	成田発(09:35)→香港着(13:40)CX509便 香港発(15:05)→ハノイ着(16:05)CX791便 空港出迎え/ホテルチェックイン
11/25(月)	午前:計画投資省・日本大使館・JICA事務所表敬 午後:調査に係る打合せ(ボランティア調整員、農業・医療分野担当職員等)
11/26(火)	ハノイ市→ホアビン省 要請背景調査(医療案件形成/保健局・省病院・郡病院等) ホアビン省→ハノイ市
11/27(水)	ハノイ市→バグザン省 要請背景調査(地場産業振興支援/3村) バグザン省→ハノイ市
11/28(木)	ハノイ市→フエ市 要請背景調査(水上生活者支援/河川沿い2地域・移住者用住宅等)
11/29(金)	隊員活動現場視察(看護師・助産師) 協議(フエ市経済局・外務局・青年団・女性連合) 視察(フエ子供の家) JOCVとの懇親会(看護師・助産師・観光業)
11/30(土)	午前:フエ大学要請背景調査(獣医師)等 フエ市→ハノイ市
12/1(日)	資料整理
12/2(月)	ハノイ市→タインホア省 要請背景調査(農業案件形成/農業局・青年団等)
12/3(火)	要請背景調査(医療関連案件形成/赤十字協会・女性連合等) タインホア省→ハノイ市
12/4(水)	ハノイ発(11:10)→香港着(13:55)CX790 香港発(15:20)→成田着(20:05)CX500

1-4 主要面談者

ベトナム側関係者

No.	氏名	所属先	役職
ホアビン省			
1	Tran Quang Khanh	Hoa Binh Provincial Department of Health	Head of Medical Practice Section
2	Nguyen Cong Thanh	Hoa Binh Provincial Youth Union	Member of Secretariat
3	Bach Thi Luan	Hoa Binh Provincial Women Union	Vice Chairman
4	Pham Ky Son	Hoa Binh Town Health Center	Director
5	Nguyen Van Ngoc	Hoa Binh Provincial General Hospital	Vice Director
6	Bui Ngoc Lam	Secretariat of Hoa Binh Provincial People's Committee	Expert in the field of Culture and Social Affairs
7	Nguyen Van Qua	Hoa Binh Provincial Department of Health	Head of Personnel - Administration Section
8	Dinh Thi Nghiem	Da Bac District Health Center	Vice Director
9	Nguyen Truong Tho	Hoa Binh Provincial Department of Health	Head of Planning Section
10	Truong Quoc Chien	Hoa Binh Provincial Department of Health	Vice Director
11	Truong Quy Duong	Hoa Binh Provincial General Hospital	Director
12	Ha Trung Nghia	Hoa Binh Provincial General Hospital	Vice Director
13	Nguyen Van Ngoc	Hoa Binh Provincial General Hospital	Vice Director
14	Bui Xuan Thuy	Hoa Binh Provincial General Hospital Head of Obstetrics Dept.	Head of Obstetrics Dept.

15	Bui Manh Liet	Hoa Binh Provincial General Hospital	Head of Personnel Section
16	Le Thi Sau	Hoa Binh Provincial General Hospital	Head Nurse

No.	氏名	所属先	役職
バグザン省			
17	Luong Duc Hien	Dinh Ke Communal Party Committee	Secretary
18	Nguyen Ngoc Luong	Dinh Ke Communal People's Committee	Chairman
19	Luong Son Bao	Dinh Ke Agricultural Cooperative	Manager
20	Luong Xuan Lai	Dinh Ke Communal Farmer's Union	Chairman
21	Nguyen Minh Thang	Dinh Ke Communal Youth Union	Secretary
22	Ngo Xuan Phu	Tan Dinh Communal People's Committee	Chairman
23	Nghiem Dinh Van	Tan Dinh Communal Party Committee	Secretary
24	Dang Quang Thanh	Tan Dinh Communal People's Committee	Vice Chairman
25	Dao Tien Hac	Tan Dinh Communal Cooperative	Manager
26	Nguyen Minh Phung	Tan Dinh Communal Youth Union	Secretary
27	Nguyen Than Vien	Tan Dinh Communal Farmer's Union	Chairman
28	Tran Thi Le	Tan Dinh Communal Women's Union	Chairman

29	Nguyen Nhu Bay	Bo Ha Communal Party Committee Bo Ha Communal Cooperative	Secretary Manager
30	Nguyen Thanh Binh	Bo Ha Communal People's Committee	Chairman
31	Tran Van Men	Ba Ha Communal Father Land Front Committee Bo Ha Communal Agricultural Service Cooperative	Chairman Vice Manager
32	Tran Van Diep	Bo Ha Communal Health Station	Head
33	Khuong Thi Xa	Bo Ha Communal Women's Union	Chairman

No.	氏名	所属先	役職
フエ市			
34	Nguyen Thi Minh Nguyet	Hue City Women's Union	Standing member
35	Nguyen Dang Thang	Hue City Youth Union	Acting chairman
36	Phan Canh Viet Cuong	Bureau of Foreign Affairs - Hue City People's Committee	Vice Director
37	Phan Van Hai	Bureau of Foreign Affairs - Hue City People's Committee	Expert of Japanese Desk
38	Hoang Thi Thu Phuong	Bureau of Economics - Hue City People's Committee	Vice Director
39	Dong Si Toan	Bureau of Economics - Hue City People's Committee	Expert of Agriculture
40	Nguyen Tan Phuoc	Bureau of Economics - Hue City People's Committee (in charge of settling boatmen)	Expert

41	Pham Hong Son	University of Agriculture and Forestry, Hue University	Head of Veterinary Department
42	Phung Thang Long	University of Agriculture and Forestry, Hue University	Head of Specialized Husbandary Department
43	Dinh Thi Bich Lan	University of Agriculture and Forestry, Hue University	Assistant in Science Research and Int'l Cooperation
44	Le Viet Ngu	Hue University	Vice Director
45	Le Van Thuyet	Hue University	Head of Section of Science Management and Int'l Cooperation
46	Lai Xuan Thuy	Hue University	Head of Section of Planning Education Project
47	Tran Ngoc Nam	Hue Science University	Head of Geology Department

No.	氏名	配属先	役職
タインホア省			
48	Nguyen Huu Hoan	Hoang Hoa District People's Committee	Vice Chairman
49	Le Khac Ngo	Hoang Hoa District People's Committee	Head of Section of Agriculture and Rural Development
50	Hoang Khac Y	Hoang Hoa District People's Committee	Vice Head of Section of Agriculture and Rural Development
51	Pham Ba Oai	Hoang Hoa District People's Committee	Vice Head of Section of Agriculture and Rural Development

52	Phan Thi Luong	Hoang Hoa District Red Cross	Chairman
----	----------------	------------------------------	----------

日本側関係者

No.	氏名	所属先	役職
1	菊森 佳幹	在ベトナム日本国大使館	二等書記官
2	金丸 守正	JICA ベトナム事務所	所長
3	戸川 正人	JICA ベトナム事務所	次長
4	仲宗根 邦宏	JICA ベトナム事務所	所員
5	久米 達哉	JICA ベトナム事務所	ボランティア調整員
6	佐藤 豊	JICA ベトナム事務所	ボランティア調整員
7	國本 和彦	JICA ベトナム事務所	ボランティア調整員
8	小林 一之	JICA ベトナム事務所	企画調査員

面会隊員

No.	氏名	隊次	職種	配属先
1	丸田 啓子	12年度2次隊	看護師	フエ市人民委員会 フエ市立病院
2	山下 美穂	12年度2次隊	助産師	フエ市人民委員会 フエ市立病院
3	小林 章子	14年度1次隊	観光業	フエ市人民委員会 フェトゥーリズムスクール

1-5 対処方針

- | |
|---|
| <p>(1) 現在隊員確保済み・要請中案件についての精査を行い、候補生への情報提供・選考に資する。</p> <p>(2) 受入窓口機関及び配属先関係者と協議し、現地の要望を確認すると共に村落開発分野の応募者の傾向や対応可能な活動内容等の情報提供を行い、村落開発分野隊員派遣についての理解促進に資する。</p> <p>(3) 同分野における今後の隊員派遣方針及び派遣形態について JICA ベトナム事務所と協議を行い、派遣計画策定に資する。</p> |
|---|

1-6 調査項目

- (1) 隊員確保済み・要請中の案件（村落開発分野）についての現地調査
 - ・活動内容
 - ・受入体制 等
- (2) 受入窓口機関及び配属先関係者との協議
 - ・受入側の要望聴取
 - ・村落開発普及員の活動内容の紹介
 - ・協力内容についての質疑応答
 - ・派遣予定隊員の活動の方向性についての合意形成
- (3) JICA ベトナム事務所との協議
 - (現地調査前)
 - ・村落開発分野応募者の傾向等の情報提供
 - ・対応可能な活動内容の提示
 - ・調査方針に係る協議
 - ・ベトナム事務所からの情報提供
 - 「バックマイ病院プロジェクトの今後の動き」
 - 「農業農村開発分野の現況」
 - (現地調査後)
 - ・今後の協力隊派遣計画に係る協議
- (4) 隊員活動現場視察
 - ・フエ市（看護師・助産師）

第2章 ベトナムにおける青年海外協力隊派遣概要

2-1 派遣中隊員数

調査時（2002年11月末現在）、30名（内女性20名、内シニア隊員2名）が活動中であり、1995年の派遣開始以来の累計派遣人数は72名（内女性46名、内シニア隊員3名）である。

2-2 隊員派遣の現状

2002年11月末現在、ベトナムでは、日本語教師をはじめとする教育文化部門への派遣が一番多く、隊員全体の約40%を占めている。続いて、看護師、助産師等の保健衛生部門が30%、テニス等スポーツ部門が30%と並んでいる。

2-3 青年海外協力隊派遣方針

2-3-1 派遣の推移

1995年の派遣開始以来、最初の4年間はベトナム政府機関の方針もあり、ハノイにおける日本語教師のみであったが、1999年からホーチミン市へのスポーツ隊員、中部ゲアン省への保健医療分野の隊員派遣が開始され、現在は、中部のフエ市及びゲアン省の看護師・助産師隊員、ベトナム南部のビントゥアン省、ニントゥアン省のスポーツ隊員、北部トゥインクアン省の医療分野の隊員が加わり、職種、派遣地域ともに拡大傾向にある。

隊員派遣開始から8年が経過しており、ベトナム政府及び各配属先の協力隊への認識・評価・期待度が高くなってきている一方、中央から地方への情報伝達が十分とはいえず、地方政府（地方人民委員会）の協力隊事業に関する情報不足が課題となっている。

2-3-2 派遣方針

派遣方針としては、これまで派遣数の多くを占めていたハノイの日本語教師隊員及びホーチミン市のスポーツ隊員の派遣については、要請内容と配属先の体制を見極めながら派遣規模を検討しつつ、代わって、①保健医療、②村落開発、③基礎教育・障害者支援（現職教員特別参加制度対象職種）を重点分野とした地方展開を目指し、派遣数、派遣地域ともに拡大する計画である。

地方展開においては、以下の理由により地方の拠点病院へ看護師・助産師隊員を派遣し、上に掲げた重点分野（職種）のバランスを考慮しながら同一地域（省）への複数派遣を行う。

拠点病院への看護師・助産師隊員の配置により、当該地域の医療関連情報の収集や

関係機関との連携が可能となり、地方展開を図る際の要件である隊員の傷病時・緊急時対応などに寄与することが期待できるとともに、JICAの援助重点分野である拠点・中核病院整備プログラム（病院間のリファレルシステムの強化）への貢献も考えられる。

また、同一地域に異なる職種 of 隊員を複数派遣することは、情報交換しながらお互いの活動を補完しつつ、互いに啓発しながら有機的な連携による相乗効果が期待でき、当該地域の総合的な発展を検討する上でも意義があると思料する。さらに、ベトナムの特に地方での閉鎖的環境を考慮すると、同一地域への複数派遣は隊員の精神衛生の観点からも有効であると考えられる。

なお、本派遣方針はこれまでの派遣の中心であったスポーツ分野・教育分野（特に日本語教師）等、文化・青年交流的色彩の濃い職種の派遣を否定するものではなく、都市部、地方における配置バランス等を考慮しつつ、右職種についても引き続き優良案件の開拓に努めることとする。

上述した派遣重点分野については、要請開拓の段階から、JICA援助重点分野である農業農村開発、教育・保健医療及び環境の3分野におけるJICA協力スキームとの連携の可能性を視野に入れつつ、実施効果の高い案件形成を図る。

第3章 調査結果

3-1 ホアビン省

配属先 ホアビン省人民委員会

勤務先 ホアビン省保健局

3-1-1 要請内容

ホアビン省の村落開発普及員には、次の3つが活動目標とされている。(付属資料4「受入希望調査表」参照)

- ① 人民委員会、病院、青年団、女性連合などと協力して、村落レベルにおける医療保健啓蒙活動を行うこと。
- ② 省内の医療関係機関の調査をすることによってニーズを明確にし、その後の協力体制やJOCV 隊員導入に関する分析を行うこと。
- ③ 北部医療強化リファレルシステムの確立に向けての、情報収集と現場での活動状況の報告を行うこと。

当該地域へは、14年度2次隊で村落開発普及員が本調査団の帰国直後の2002年12月上旬にハノイに着任している。また、14年度3次隊で保健師隊員が派遣される予定である。

以上のような状況の中で、ホアビン省人民委員会において関係機関の出席者と協議した。(付属資料1「議事録(要旨)」参照)

3-1-2 調査概要

人民委員会、保健局、青年団、女性連合それぞれが、各立場でJOCVの活動を期待するとともに、協力体制ができることを希望していた。また、保健局出席者からは、住居その他の生活面に関して全面的に協力することが述べられた。

その後、省総合病院、予防医療センター、郡病院などを視察したが、それを含めて所見を以下にまとめる。

まず、上記の活動目標を整理して派遣隊員に十分に理解させることが重要である。元来、村落開発普及員は住民レベルのニーズ調査やそれに基づいた啓蒙活動、改善運動、調査や企画立案などを得意の分野としている。隊員の選抜や技術補完研修もそのような指針に基づいて行われている。

また、同省の青年団は1995年よりJICAとの関係を築き、5人の青年を青年招聘事業で日本へ派遣したことがあると言われ、積極的に社会開発分野での活動を推進している。女性連合も保健、家族計画、マラリア予防などの分野で活動しており、農村部の生活改善に努めている。このような状況を考えると、①の目標に関しては諸機関との協力がうまくいけば十分な成果をあげる可能性は

大きい。

②の目標に関しては、医療機関に実際に勤務したことの無い隊員が、諸機関のニーズを適切に把握するには困難が伴うことも予想される。現場からの要求を適切に整理対応するためには、医療関係の隊員、専門家、ボランティア調整員などに率直に事実を報告し、絶えず示唆や判断を仰ぐ必要がでてくると思われる。

③はハノイのバックマイ病院を中央レベルとし、その下に省病院、郡病院、コミュニケーションヘルスセンターをリファレルシステムで体系化しようというプロジェクトである。医療関係の専門家等は中央の病院にかかわる業務に多忙なために、地方に長期滞在することが困難になっている。地方の現状に関する情報の収集と連携強化のために、隊員からの報告が期待されている。この活動についても、実際に医療機関に勤務したことがない隊員には、②と同様に困難が伴う可能性がある。そもそも、村落開発普及員の職種に医療機関で勤務したことがある者、すなわち看護師、助産師、保健師などが応募してくることは、皆無ではないにしても、きわめて稀であり、医療機関での専門体験を持った人材を確保するのは難しい。この点に関して、現地事務所からの報告によると、昨年12月に保健医療分野隊員分科会が、ベトナムでは初めて関連分野の専門家を交えて開催されたとのことであり、このような分科会等を活用し、必要に応じて情報収集や意見交換ができる体制を作っておくことが、村落開発普及員が業務を遂行していくうえで非常に重要であると思われる。

以上の点に留意すれば、ホアビン省のような地域の医療機関における実施体制の向上、中央の医療機関との連携、地域住民への啓蒙などの複合的総合的活動は、村落開発普及員の活動としても十分に成果があげられると考えられる。しかしながら、活動がかなり多岐にわたるので、あせることなく一つ一つ知識や体験を増やし、隊員の中に全体のイメージができあがるように指導する必要がある。それとともに、そのことをベトナム側関係機関にも十分に理解してもらうことが肝要である。特に今回は初代隊員であり、実態調査による具体的情報の収集、蓄積、体系化が当面の業務になるとと思われる。

居住、食事、生活環境に関しては、地方の町ではあるが一通りそろっているので問題ないと思われる。ただし、公的な車はポストによってその使用が厳格に決められているので、隊員は使うことができない。各機関や村落を巡回するためには交通手段の問題を考慮しなければならない。

3-2 バグザン省

配属先 バグザン省人民委員会

勤務先 タンディン村人民委員会、ディンケ村人民委員会、
ボーハ村人民委員会

3-2-1 要請内容

バグザン省農業農村開発局は農民の収入安定と向上、さらに利益のあがる地場産業の育成によって、地域全体の経済活性化と社会的安定を目指している。そのイニシアティブで、タンディン、ディンケ、ボーハの3つがモデル村として選ばれ、上記を推進するために、3件の村落開発普及員の要請が同じ内容で提出された。

3-2-2 調査概要

留意すべき点は、この3つの村の置かれている状況がそれぞれ次のとおり異なっていることである。

- ・ タンディン村：農村地帯に小商店がちな田園地域にある。町の中を鉄道が走っており、それなりの活気もある。人民委員会では耕地整理による生産向上、畜産、野菜、養殖などさまざまな農業部門における展開を模索している。
- ・ ディンケ村：省都バグザンに隣接し、道路も整備されて都市化が一番進んでおり、外部経済とのつながりの点ではもっとも有利な位置にある。
- ・ ボーハ村：バグザン省の辺境で、他の2村と比較すると、地理的にも産業的にも最も後背地にあるといえる。稲作とタバコ葉が主要作物であるが、竹細工の伝統もあり、箕をはじめとする農具や筥のような漁具が生産されていた。

外部経済との接続によって地域経済を発展させ、自給自足的経済から市場化経済へ脱却することによって農民の生活の向上をはかるという方針は、今回の調査においてさまざまな場で聞かされた。しかし、具体的な方策を明確に持っているところは少ないようである。協議においても、どのような業種を発展させたいのか、また、実際の資源（素材、技術、人材、流通）などについての質問に、明確な回答を得ることはできなかった。

さらに初期段階でやるべきターゲット、例えば「材料の質、製作技術の向上か」「デザインの向上か」「生産の組織化か」「マーケット調査か」「販売方法や販売管理か」などについても明確な認識はないように思われた。

また、調査団はディンケ村でアルミ成型による金物づくり、ボーハ村において竹細工の製作現場を視察したが、現状のままでは素材的にも技術的にも外部マーケットに耐えられるかどうかは疑わしい。

逆に言えば、今回の村落開発普及員は、まず村の現状を綿密に調査し、そのニーズを確かめた上で、できることから行っていくしかないと思われる。

タンディン村人民委員会では JOCV に稲作や野菜、畜産などの専門技術を期待していたようであったので、村落開発普及員の職務と特質について十分に解説しておいた。抽象的議論では相手側も把握し難いようであるので、具体的に隊員候補者が決まった段階で、その経験や対応できる技能についてさらに詳しく説明し理解してもらう必要がある。

地場産業育成にはさまざまな側面があるので、JOCV を3つの各村に派遣する場合は、各人が異なる分野のバックグラウンドをもった人材を選抜し、互いに情報交換をするとともに補完的役割を担うことが望ましい。この件に関しては、こちらから説明し各人民委員会は了解している。

3-3 フェ市

配属先 フェ市人民委員会

勤務先 フェ市経済局、フェ市外務局

3-3-1 要請内容

フェ市における村落開発普及員の要請は2種3件である。貧困層である水上生活者の生活改善のための調査分析と政策提言を行うことが活動内容となる経済局からの要請が2件、社会的犯罪の予防のための啓蒙に関する活動を行うことが活動内容となる外務局からの要請が1件提出されている。

3-3-2 調査概要

水上生活者の生活改善に関しては10年前より人民委員会を中心に水上生活者の陸上移住政策が開始され、5年前からは特別地区をつくって市が住宅を建てて供給している。その結果、生活環境や子供たちの教育環境が大きく改善されたが、現在陸上移住したのは約500世帯で、いまだ700世帯の水上生活者が存在していると言われている。

水上生活者の生業は大きく3つに分かれる。一つ目は水上の船で寝泊りしているが、仕事は陸上にあり、タクシーの運転手、荷物運び、その他の雑役に従事するものである。二つ目は、手漕ぎボートで伝統的な漁業を営むものである。収入の点では最下層に属するものの割合が多い。最後は川底から砂利を採取し、運搬して販売するものである。この仕事は夜中の2時くらいから昼までかかるきわめて重労働であるが、一回の運搬で85,000ドン(約5.6ドル)くらいは稼げるといふ。フェ市立病院の看護師の月給が50万ドンから60万ドン(約40ドル)であることを考慮すると、装備や頑強な肉体があれば、かなりの収入をあ

げていることになる。

キム・ロン地区の元水上生活者のセツルメントを視察し、また、フォン川の水上生活者にインタビューを行った。その際に明確になった問題は、水上生活者たちの多くが陸上で生活したいという希望をもっているが、収入と居住環境に強く不安を抱いていることである。現在既に陸上で収入を得ているものは別として、水上でしか収入を得ることのできないものに、どのようにして生活の糧を与えられるかは大きな問題である。

また、土地不足と資金不足で今後の市の住宅供給はアパートのような集合住宅にならざるを得ないと市当局は言う。しかし、集合住宅に対する抵抗感や反発が水上生活者に根強くあることを感じた。また、従来 of 家族形態や人間関係が崩壊するのも恐れている。

これらは市の政策と対象住民のニーズが乖離していることを意味しており、経済局でも懸念しているように、強行すれば後戻りしてしまう可能性が高い。

以上のことを考慮すると、本要請に関する派遣隊員は、水上生活者の実際の生業形態、家族構成、家庭内教育、コミュニティ関係、伝統的価値観などを十分に調査できることが重要となる。また、貧困層の移住や定着化に関する政策は、時には政治的問題を帯びることもある。そのような意味においても「調査研究」を中心としていくべきである。そのためには、文化人類学や開発人類学についての知識や調査経験があることが望ましい。

後者に関しては、実際の犯罪や暴力などの社会問題に関わるのではなく、外務局、青年団、女性連合などと協力し、若者や女性に対する啓蒙活動を行っていくことが中心となる。フエ市はハノイ、ホーチミンと比べると犯罪件数は格段に少ないが、観光地として確立するために、今から啓蒙しておく必要があるという認識であった。

看護師・助産師隊員が勤務しているフエ市立病院、「フエ子どもの家」の視察も大変参考になった。前者においては、実際に日本とベトナムの運営や組織の違い、伝統文化の強さ、清潔感不潔感の違いなどについて説明を受けた。この両名は2年間の活動に対して、市の人民委員会から表彰されている。

「フエ子どもの家」の現在の最重要課題は「子どもの保護育成」から「卒業する子どもの自立」へと移ってきているというのは示唆に富んでいる。やはり、生活を支えるものがなければならない。そのために日本で投資セミナーを開いたり、日本企業による研修を模索しているそうである。実際の運営はベトナム人に任せて、日本とのパイプ役として支援するという方針は、村落開発普及員においても適用できる可能性がある。

3-4 タインホア省

配属先 タインホア省人民委員会

勤務先 ホアンホア県農業農村開発局 ホアンホア県赤十字協会

3-4-1 要請内容

ホアンホア県では、農業農村開発局から2件、赤十字協会から1件の要請が提出されている。前者は今後の隊員派遣のニーズ分析、モデル農家の選定、農民の所得向上に向けた活動などが期待され、14年度3次隊、15年度1次隊で1名ずつの隊員派遣が決定している。後者は隊員派遣のニーズ分析とともに、赤十字協会の組織強化や大衆組織との連携による啓蒙活動が目標とされている。14年度3次隊で派遣予定である。

3-4-2 調査概要

タインホア省は人口約26万人、東側は海岸、西には山、県南にはマー川が流れ、稲作、トウモロコシ、イモなどを中心とした農業生産やエビの養殖を含めた水産業が盛んなところである。ただし、自給生産的側面が強く、市場商品生産に対する技術は遅れている。

現在はそれぞれ「稲の品種改良」「新しい農村」「家畜飼育」「水産養殖」をメインとした4つのモデル農村を設定している。農業農村開発局は、貧困地域の底上げと優良地域のモデル化の両面から政策を推進している。

このように自給自足的経済から商品作物や手工業を中心とした市場経済に移行する、すなわち外部経済と接続していくためには、地域が持っている資源が重要であることは言うまでもない。その点に関しては、視察で訪れたホアン・ティン村の竹製品の製作には強く印象づけられた。この村ではホアンホア県の山で採れる特別の竹を素材として使っていた。この竹は節の間が通常の2倍の70～80センチもある種で、硬くて柔軟性に富むものである。この素材のよさがまず製品の質を高めている。また、伝統的に箕や籠を編む高度な技術があったことも見逃せない。

しかし、もっとも驚かされたのは、この農村部に日本の若い女性が半年以上滞在して、製作指導にあたっていたことである。彼女は日本の名古屋の企業から派遣されており、それまで個別に自宅で行っていた作業を、一箇所に40人ほどの農民を集め、製品作り、研磨、検査などを分担し流れ作業でできるように組織化していた。日本に輸出し、企業からクレームがくると、すぐに対応するようにしている。日本人の指導に従うことによって、日本での使用に耐えるものを生産できるようになったことは大きな成果であろう。

地場産業を興すためには、地域の持っている資源を十分に調査し、可能性を

探り、さらに商品としての質を向上させ維持することが重要であり、上記の経験は村落開発普及員の可能性を示すとともに、隊員もこのことを十分念頭において調査分析、活動することが望まれる。

県赤十字協会会長は快活な女性で、精力的に活動しているように見受けられた。保健衛生だけでなく、環境衛生、食品安全、飲料水、農薬などさまざまな課題を指摘し、農民の生活改善に情熱を持っている。農民の貧困対策のための啓蒙や企画を隊員に期待していた。県全体では広いので、地域を限定してモデル的に活動する必要があると思われる。

赤十字協会は活動内容が明確であり、受け入れ態勢も整っていると感じられた。赤十字協会の会員自体が無給のボランティア活動なので気負いがなく、村落開発普及員と細かい住民レベルに対する活動に共同歩調がとれるであろう。

また、赤十字協会は青年団、女性連合とも連携協力している。派遣隊員にはこれらの活動がどのように有機的に結びついて成果を出している、あるいは出していないのかを実地に調査し、その報告が今後の JOCV の村落レベルにおける活動の可能性を探る一助になるとと思われる。

さらに、タインホア省には村落開発普及員 3 名の他に、保健師 1 名、幼稚園教諭 2 名の JOCV 隊員が派遣される予定なので、各隊員が各自のニーズ調査を実施し、連携・情報交換することで、公衆衛生や児童育成などの問題の方向性が示せるかもしれない。このような地域では、村落開発普及員が他の職種の隊員間の調整や大きな枠組み提示ができると、JOCV の可能性がさらに高まると思われる。

第4章 考察

4-1 団長総括

今回、ベトナム各地で調査をしてみて、最も強く印象に残ったことはベトナムと日本の「文化・社会的距離」が当初考えていた以上に近いということであった。このことは、今後、ベトナムにおいて村落開発普及員が地方展開していくにあたり、その成果に期待できることを示唆している。

異文化を理解するには常に困難がともない、日本人がなじみやすい社会とそうでないものがあるが、村落開発普及員のように現場の住民と接するものにとっては、この距離感が非常に重要な要因となる。逆にそこに欧米先進国のボランティアとは異なる日本の隊員の活躍の場がでてくる。

次に他の途上国と比較してベトナムは、組織体系がしっかりしている印象を受けた。定刻どおりに会議がはじまり、上位者の発言や決定には実効性が担保されているようである。上部組織で承認されれば、実行に障害がなく、今回の要請も順調に進んでいくであろうという現地の発言を何度かきいた。もちろん官僚制の弊害もあろうが、仕事をすすめていくうえで、十分なサポートを得ることができると思われる。

また、人民委員会や農業農村開発局、外務局などさまざまな組織と協議をしたが、こちらの説明に対する反応が適切で、やはり他の国々と比較して、村落開発という業務に関して理解度が深いと感じられた。

県や郡レベルの病院、診療所、学校、市場なども数多く視察したが、これも他の多くの途上国と比較し、設備や組織、また人材の面でしっかりしているように見受けられた。ベトナムの識字率が非常に高いことも、業務を実施していくうえで、大きなメリットとなるであろう。

また、住環境、食事などもきわめてよく、その面でのストレスがきわめて少ない国の一つであろう。実際に現地で業務を行う村落開発普及員にとって、このことは極めて重要である。ただし、懇親や人間関係の構築のために飲酒の習慣があるので、飲めない隊員は多少苦しいかもしれない。

一方、問題点も指摘しておかなければならない。まず、各配属先機関とも、「村落開発普及員」の業務の把握が十分にできているとはいいがたい。やはり、農業や家畜飼育、物品販売などの専門的技術指導が第一に求められているという印象は強かった。この点に関しては重々説明したが、初めての受け入れなので、まだイメージはできていないのが実情であろう。逆に言うと、成果に対する期待感は非常に大きいので、各隊員がいかにそれに答えていくかが大きな課題となる。

また、開放経済が進んだといっても、社会主義の国であり、官僚制組織がし

っかりしている反面その弊害もあると思われる。ある側面で成果をあげ評価されれば、その企画は継続強化されるであろうが、メリットなしと思われたら、たちまちたち切れになる可能性もある。その点、最初の隊員の活動に成否がかかっていると言える。

さらに、日本とベトナムとの文化的社会的距離が近いといっても、仕事のやり方、考え方、生活についてまったく異なった感覚や習慣が存在し、それによって困惑したり対立したりすることもあると先任隊員から聞かされた。異文化社会に赴くのであれば当然のことであり、この点に関する説明と隊員自身の適応能力が必要となってくる。

4-2 村落開発普及員の派遣方針に係る提言

今回の調査結果を踏まえ、以下の4点を提言する。

(1) 村落開発普及員に、開発のための連携の意識を持たせる。

村落開発普及員は個別の特殊技能を発揮するよりも、住民の視点に立って、住民と共に地域の改善や向上に努めることを得意としている人が多い。ベトナムのように新たに村落開発普及員を導入する地域においては、このような地域の改善啓蒙活動という本来の業務だけでなく、他の組織との連携の節となるような働きを期待する。その働きには、次の3つの側面がある。

- ① 現地のさまざまな組織、機関の連携の接点となる。
- ② 他職種の隊員やJICAのプロジェクト専門家と協力する。
- ③ 他職種の隊員の新規導入に向けてのニーズ調査をする。

このような意識を訓練中から施し、現場でも活用できるようにする。

(2) 今回の村落開発普及員は2～3代継続派遣する。

初代隊員は現地調査やニーズ分析、関係機関の調整などを中心に行い、2代目隊員はその実施に重きをおき、3代目がそれまでの活動で得た実績やデータを分析し、さらに発展のために何が必要かを考えていく。このような全体的なフレームの中で、各隊員を位置付けるように、当初から準備しておく。

(3) 他職種の隊員の導入について考える。

人民委員会をはじめ各機関からの高い期待に応えるために、各地域に適した他職種の隊員を導入することで実績を示す。一例をあげれば、ホアビン省では保健衛生関係、バグザン省やタインホア省では農業関係や水産関係、あるいは手工業、また、フエ市では文化人類学関係など。要請を提出してから実際の隊員派遣までかなりのタイムラグがあることを考慮すると、早い時期から考えておく必要がある。

(4) 新隊員の現地訓練に社会文化に溶け込むための現地訓練を含める。

新隊員の任地着任前の現地訓練に、語学だけでなく、ベトナム社会に溶け込む準備としての現地訓練を含める。当該社会のシステムや生活習俗を事前に学んでおくことは、着任当初に相手側に不必要な誤解を与えたり、瑣末なことでJICA事務所に迷惑をかけることなどを防ぐことになる。

付属資料

- 1 議事録（要旨）
- 2 配属先配布用アンケート
- 3 ベトナム村落開発分野要請一覧表
- 4 受入希望調査表（平成14年度春募集・秋募集）

議事録（要旨）

月日	2002年11月25日(月)
場所	計画投資省
出席者	Mr. Nguyen Xuan Tien, Senior Officer, Foreign Economic Relations Dept., Ministry of Planning and Investment 調査団、久米ボランティア調整員

【協議内容(要旨)】

当方から調査目的の説明をした後、以下のような協議を行った。

(先方からの要望)

- ・ 協力隊の拡大・維持のために、地方のニーズをよく調べて協力方法を十分検討してほしい。
- ・ 地方政府は、中央政府に比べ JOCV に対する理解がまだ不十分なところがあるので、訪問先では十分な協議を行ってほしい。
- ・ 今後は、貧困削減のための協力を力を入れてほしい。
- ・ ベトナム人と日本人は考え方や仕事のやり方等異なる部分があるので、協力隊員は、それをよく理解した上で、活動することが重要である。

(調査団)

- ・ 貧困削減のための協力は重要だと我々も考えており、貧困削減に向けて、村落開発普及員を派遣する予定である。しかし、その活動の効果が現れるまでには時間がかかることをご理解いただきたい。

月日	2002年11月25日(月)
場所	在ベトナム日本国大使館
出席者	菊森 佳幹 二等書記官、調査団、久米ボランティア調整員

【協議内容(要旨)】

調査団から、どういう隊員をベトナムへ派遣すればよいか、彼らにはどのような訓練を行えばよいかを現地調査や配属先との協議を通じて調査する等の調査目的を説明した後、以下のような協議を行った。

(村落開発普及員と専門家等の連携)

- ・ 村落開発普及員と農協等に派遣している政策アドバイザーとの連携がうまくできれば有効と考える。(菊森二等書記官)

とのコメントに対し、調査団から次のように回答した。

- ・ JICA ベトナム事務所、専門家、場合によっては配属先関係者を集めて、問題把握・共有の場を設けることを計画している。(久米調整員)
- ・ 連携がうまくできている国の村落開発普及員は、活動がうまくいっているケースが多い。我々も、村落開発普及員が活動するにあたっては、周りからのサポートや他の隊員や専門家等との連携が重要と考えている。(調査団)

月日	2002年11月25日(月)
場所	JICA ベトナム事務所
出席者	金丸所長、調査団、久米ボランティア調整員

【協議内容(要旨)】

- ・ 金丸所長から、配属先等関係機関に対しては、村落開発普及員の成功例を紹介すると有効ではないか、農協のプロジェクト関係者と連携ができればよいのではないかとコメントがあった。また、他プロジェクトと連携した活動が求められる協力隊員は、チームの一員であるという位置づけをよく認識して活動を行う必要があるとのコメントがあった。
- ・ 調査団からは、村落開発普及員の活動に対しては周りのサポートをお願いしたい旨依頼した。これに対し、久米調整員から、サポート体制作りのために、村落開発普及員に対しては、赴任後早い時期に関係者と顔合わせをさせる予定である旨説明があった。

月日	2002年11月26日(火)
場所	ホアビン省人民委員会
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ QUACH THE TAN(クアック テー タン)ホアビン省人民委員会副議長 ・ QUACH DINH THONG(クアック デイン トン)保健局局长(医師) ・ TRUONG QUOC CHIEN(チュオン クウオック チエン)保健局副局長(薬剤師) ・ BACH THI LUAN(バク ティ ルアン)婦人連合会副議長 ・ NGUYEN CONG THANH(グエン コン タイン)ホアビン省常務書記長、青年団書記長 ・ NGUYEN VAN NGOC(グエン ヴァン ゴク)ホアビン省総合病院副院長 ・ PHAM KY SON(ファム キー ソン)村予防医療センター長 ・ TRAN QUANG KHANH(チャン クアン カイン)保健局業務部長 ・ BUI NGOC LAM(ブイ ゴク ラム)副議長秘書、ホアビン省人民委員会事務所専門委員 ・ NGUYEN VAN QUA(グエン ヴァン クアー)保健局行政組織部長 ・ DINH THI NGHIEM(ディン ティ ニイエム)DA BAC(ダー バック)県予防医療センター副センター長 ・ 調査団、久米ボランティア調整員、小林一之企画調査員

【協議内容（要旨）】

- ・ 当方から調査目的、土橋隊員(村落開発普及員)が12月に赴任予定であることを説明した。また、ベトナム語習得には時間がかかるため、赴任後しばらくは十分な活動はできないと思うが協力願いたい旨依頼した。
- ・ 人民委員会副議長からは、土橋隊員がホアビン省に赴任したら、同隊員の活動や生活がうまくいくように協力したい旨の発言があり、保健局長からは、活動については心配することはない旨の発言があった。
- ・ 業務・生活上のサポートは保健局副局長(男性)が行うとのことであったが、特に生活面については、土橋隊員が女性ということもあり、女性連合の方にサポートをお願いしたい旨当方から依頼した。

久米調整員から、ホアビン省の女性連合・青年団の活動概要について質問したところ、回答は以下の通り。

(女性連合)

- ・ 女性連合は、会員13万5千人で、ホアビン省のすべての村にある。
- ・ 協力隊員の活動がうまくいくようにいつでも協力する。協力隊員の活動の目的は、村の生活をよくするという事なので、それは我々の活動目的と合致しているため応援したい。
- ・ 地方の山岳地帯では、教育レベル、生活習慣等が都会とは大きく異なる。協力隊員は、

我々と生活を共にすることによって、これらについてよく理解できるようになると思う。

- ・ 女性連合は、主に保健関係のボランティアを行っており、その分野で協力隊員に協力をしたい。我々が行っているボランティアは、具体的には、出産・健康に関わることや家族計画、マラリア予防のための蚊帳の配布などである。

(青年団)

- ・ 青年団から5人が日本へ青年招聘事業で招かれたことがあり、JICA とは 1995 年以降関わりがある。他国との関わりについては、2000 年に労働・生活・文化交流のためにシンガポールからボランティアを受け入れた経験がある。
- ・ 青年団の目的は、中央から各村まで、若者を集めて社会開発・経済発展に向けて活動させることである。現在、その目的のためにボランティアプログラムを活発に実施しているところであり、土橋隊員もこれに参加できると思う。
- ・ 協力隊員を通じて日本についての知識を深めたいと考えている。そして双方の協力関係が発展することを期待している。
- ・ 協力隊の派遣については、青年育成の側面もあるので、青年団と協力隊員が交流することを期待している。(久米調整員)

【アンケート回答】(アンケート質問内容については、「付属資料2」参照)

- (1) 生活が今よりもよくなること、特に村の医療状況が改善すること。
- (2) 医療分野で積極的に活動してもらいたい(女性連合・青年団も協力する予定)。
衛生、健康問題の指導のため、協力隊員には、各村を訪問してもらいたい。
- (3) カウンターパートの確保については、精一杯協力するつもりである。各団体、各専門機関と交流したい場合は、協力したい。
- (4) 計画実現のためには、資金をだす準備がある。必要であれば、住民からも資金を調達するつもりである。
- (5) 特になし
- (6) ①土橋隊員は、医療分野の経験があるのか。
→協力隊員は、専門家とは違う。村落開発普及員の場合は、専門知識の有無よりは、村落開発、調整がうまくできることを重視して選考している。土橋隊員は、薬学を専攻しているが、まだ若いので、知識、経験不足のところがあったら、皆様にご協力をお願いしたい。村落開発普及員の活動は、周りのサポートがあってこそ成功する。(調査団)